

◆主なマーケットの動き

株式	債券	為替
<p>日本株式（1/11） 前日に米利上げ一時停止観測や米中通商協議進展への期待を背景として米株が続伸したことや、108円台半ばまで円安が進行する中、自動車や機械などの輸出関連銘柄に買いが集まったほか、前日引け後の決算で、3年ぶりの減益ながら、好調な海外事業や12月既存店売上増を発表して急伸したファーストリテイリングに牽引されて、日経平均株価は反発しましたが、中国の景気減速を背景に安川電機が業績見通しを下方修正したことや、決算内容が嫌気されてイオンや吉野家ホールディングスが急落するなど、米中貿易摩擦の影響や国内消費の低迷による業績悪化が意識され、高値圏での膠着状態となりました。</p> <p>グローバル株式（現地1/10） FRB（米連邦準備制度理事会）が追加利上げに慎重姿勢を示していることはアジア新興国市場にとってプラス材料となる一方で、米中通商協議を巡る次官級会合が終了したことで、進展/合意への期待から足元で大幅反発していたことに対するポジション調整/利益確定売りが見られて、アジア株式市場はまちまちでした。欧州では、11月11日鉱工業生産が市場予想に反して低下したことや、自動車部品メーカーの決算や投資判断引き下げが嫌気されて、マイナス圏で取引されている時間が多かったものの、米中通商協議の進展/合意への期待から引けにかけて上げに転じて、欧州株式市場は総じて上昇しました。米国では、米政府機関の一部閉鎖が長引く中、年末商戦の不振でメーシーズが急落したことが小売り関連銘柄に波及したほか、パウエルFRB議長が量的引き締め継続を示唆したことで、売りが優勢となる局面もありましたが、パウエルFRB議長が同時に追加利上げに慎重姿勢を示したことや、米中通商協議進展への期待もあり、主要3株価指数が揃って5営業日続伸となりました。</p>	<p>先進国債券（現地1/10） ドイツに続いて11月11日鉱工業生産も市場予想に反して低下したことや、中国12月PPI（卸売物価指数）が大幅に鈍化したことを受けて、欧州景気の減速懸念が強まる中、ECB（欧州中央銀行）による年内利上げ見送り観測が台頭し、欧州債券利回りは総じて低下（債券価格は上昇）しました。米国では、中国・欧州景気の減速懸念から買いが先行し、10年物国債利回りは一時2.68%まで低下する局面がありましたが、パウエルFRB議長が追加利上げには慎重姿勢を示した一方で、量的引き締めの継続を示唆し、金融政策正常化プロセスを遅らせるとの観測がやや後退したことや、低調な30年債入札や米株続伸を背景に、10年物国債利回りが2.74%まで上昇するなど、米国債券利回りは上昇しました。</p>	<p>ドル円為替レート（現地1/10） 108円台前半で始まった東京時間は、米利上げ一時停止観測を背景とする日米金利差縮小を意識した円買いが出やすかったことや、米中通商協議進展を巡る次官級会合後の声明が緊密な連絡維持での合意にとどまり、踏み込んだ内容ではなかったことへの失望感から108円割れまで円が買い進められたが、国内には特段の新規材料に乏しく、その後は107円台後半でのみ合いに終始しました。海外では、パウエルFRB議長発言を受けて金融政策正常化プロセスを遅らせるとの観測がやや後退し、米長期金利が上昇したことや、米株が5営業日続伸するなど投資家のリスク回避姿勢が和らいでいることを背景に、円売りが優勢となり、108円台半ばまで円安が進みました。</p>

◆基準価額の動き

※以下の表中の「組入れファンドの動き」のうち、「米ドルベース」とは、当該組入れファンドが米ドル建のものです。「為替ヘッジなし」は、当該組入れファンドが円建のもので、為替ヘッジは行っていません。「為替ヘッジ」は、当該組入れファンドが円建つもので、為替変動の影響を抑えるために為替ヘッジを行っています。一般に、為替ヘッジを行った場合には、ヘッジ・コスト（ヘッジ対象通貨の金利と円金利の差）がかかります。

ぜんぞうシリーズ

ファンドの動き	組入れファンドの動きと組入比率（目標）			
	先進国債券 （為替ヘッジ）	先進国株式 （為替ヘッジなし） ^{*1}	新興国株式 （為替ヘッジなし） ^{*1}	
	↑小幅上昇	↑上昇	↑上昇	
ぜんぞう 1502、1702、1704、1709 ^{*2}	↑上昇	40%	50%	10%
ぜんぞう 1802	↑上昇	45%	46%	9%
ぜんぞう 1804	↑上昇	55%	38%	7%
ぜんぞう 1807	↑上昇	70%	25%	5%
ぜんぞう 1810	↑上昇	85%	13%	2%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

※"- "は組入れが無いことを表します。

*2:ファンドによって動きが異なる場合があります。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑円安
------------------	-----

*3:安定的な債券運用に切り替わっています。

◆基準価額とグラフはこちら

[1408](#) [1502](#) [1505](#) [1508](#) [1602](#) [1605](#) [1702](#) [1704](#)
[1709](#) [1802](#) [1804](#) [1807](#) [1810](#)

◆コメント

- 先進国債券市場は変わらず。先進国株式市場、新興国株式市場は共に上昇。（現地通貨ベース）
- 「先進国債券」は小幅上昇。ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」「新興国株式」は共に上昇。
- 株式比率の高い「ぜんぞう1502、1702、1704、1709」の基準価額は前日比上昇。
- 漸増期間中の「ぜんぞう1802」「ぜんぞう1804」「ぜんぞう1807」「ぜんぞう1810」の基準価額は前日比上昇。
- なお、「ぜんぞう1508、1602」は2018年7月5日に、「ぜんぞう1505、1605」は2018年11月29日に信託終了（繰上償還）、「ぜんぞう1408」は2018年12月10日に信託終了（満期償還）致しました。

しずくシリーズ

組入れファンドの動き			ファンドの動きと基本資産配分		
			海のしずく ↓小幅下落	森のしずく ↑小幅上昇	星のしずく ↑上昇
先進国中短期投資適格債券	為替ヘッジ	変わらず	75%	50%	25%
米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）	為替ヘッジ	↓小幅下落	25%	25%	8%
先進国好配当株式	為替ヘッジ	↑上昇		25%	25%
先進国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇			25%
新興国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇			10%
米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジなし）	為替ヘッジなし*1	変わらず			7%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑円安
------------------	-----

◆基準価額とグラフはこちら [海のしずく](#) [森のしずく](#) [星のしずく](#)

- ◆コメント
- 海のしずく 組入れ比率の高い「先進国中短期投資適格債券」が変わらずとなったものの、「米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）」が小幅下落となったことから、海のしずくの基準価額は前日比小幅下落。
- 森のしずく 「先進国中短期投資適格債券」が変わらず、「米国短期ハイ・イールド債券（為替ヘッジあり）」が小幅下落となったものの、「先進国好配当株式」が上昇となったことから、森のしずくの基準価額は前日比小幅上昇。
- 星のしずく ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」「新興国株式」が共に上昇となったことなどから、星のしずくの基準価額は前日比上昇。

くらだし

組入れファンドの動き			くらだし
配当成長株式	為替ヘッジなし*2	↑上昇	↑上昇

*2:「為替ヘッジなし」は、現地の株式等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

なお、本ファンドは株式と通貨のカバードコール戦略を採用しています。

米ドル/円レート（ロンドン）	↓円高
----------------	-----

◆基準価額とグラフはこちら [くらだし](#)

- ◆コメント
- ・配当貴族指数が上昇する中、本ファンドの配当成長株式ポートフォリオも上昇。
 - ・ドル円為替レートは円高となったものの、組入れファンドが上昇となったことから、くらだしの基準価額は前日比上昇。
 - ・株式カバードコール戦略はマイナス寄与。
- * 配当貴族指数とは、S&P500配当貴族指数とS&Pグローバル配当貴族指数を1：1の割合で合成したものです。

しゅういつ

ファンドの動き	しゅういつ
日本株式集中投資戦略（マザーファンド）	↑上昇

◆基準価額とグラフはこちら [しゅういつ](#)

- ◆コメント
- ・参考指標であるJPX日経インデックス400が上昇となる中、しゅういつの基準価額も前日比上昇。
 - ・個別銘柄では、武田薬品工業、日本電産などがプラス寄与、塩野義製薬、伊藤忠商事などがマイナス寄与。

たんはい

組入れファンドの動き			たんはい有	たんはい無
米国短期ハイ・イールド債券	為替ヘッジ	↓小幅下落	↓小幅下落	
米国短期ハイ・イールド債券	為替ヘッジなし*1	変わらず		↓小幅下落

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

米ドル/円レート（ロンドン）	↓円高
----------------	-----

◆基準価額とグラフはこちら [たんはい有](#) [たんはい無](#)

◆コメント

- ・米国株式市場が上昇する中、米国ハイ・イールド債券市場は小幅下落となり、たんはい有の基準価額は前日比小幅下落。
- ・ドル円為替レートは円高となり、たんはい無の基準価額は前日比小幅下落。

てつさん

組入れファンドの動き			てつさん
先進国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇	80%
新興国株式	為替ヘッジなし*1	↑上昇	20%

*1:「為替ヘッジなし」は、現地の株式・債券等の値動きに加えて為替レートの変動の影響が含まれます。

米ドル/円レート（ニューヨーク）	↑円安
------------------	-----

◆基準価額とグラフはこちら [てつさん](#)

◆コメント

- ・先進国株式市場、新興国株式市場は共に上昇。（現地通貨ベース）
- ・ドル円為替レートは円安となり、為替の動きを加味した「先進国株式」「新興国株式」は共に上昇となったことから、てつさんの基準価額は前日比上昇。

あおぞら投信株式会社からのお知らせ

【ご購入に際しての留意事項】

◆投資信託に係るリスクについて

投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資家の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」を必ずご覧ください。

<投資信託に係る費用>

◆投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	上限 3.78% （税抜 3.50% ）
換金時手数料	上限 1.08% （税抜 1.00% ）
信託財産留保額	ありません。

◆投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	純資産総額に対して 上限年率1.8628% （税込）
その他費用	上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等でご確認ください。

※上記当該手数料等の合計額については、ファンドの保有期間に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

- ・上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
- ・費用の料率につきましては、あおぞら投信が運用するすべての投資信託のうち、投資家の皆さまにご負担いただく、それぞれの費用における最大の料率を記載しております。
- ・投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等をご覧ください。
- ・投資信託は預金保険または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。投資信託は金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。
- ・投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。
- ・コメントは作成時点における見解であり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、個別銘柄を推奨するものではありません。

あおぞら投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2771号
加入協会 一般社団法人 投資信託協会